

## 町政懇談会 会議録

### 1. 開催日時

平成22年9月26日（土） 午後1時30分～午後3時30分

### 2. 対象地区・団体

小杉山自治区

### 3. 代表者名

小杉山自治区長 田崎 衛（参加者数：16名）

### 4. 開催会場

小杉山集会所

### 5. 町出席者

町長 伊藤 勝・副町長 和田正孝・建設水道課長 酒井誠明

企画情報課長 杉原徳夫・同課広報広聴係長 鈴木洋祐

### 6. 町政方針説明

先日、宮城教育大の学生が訪問した時に、ここ小杉山を「天空の里」と言っていた。町内で高い位置にあり、雪も多い場所ではあるが、町は町内どこの地区に住んでもここに住んで良かったと思われるような町づくりを第一に考え、地域の皆さんの支援をしていきたい。以前訪問した際に話があった町民バスの運行については実施しているところではあるが、本当に必要なときに対応できているかということは課題としたい。まずは現状を検証しながら、場合によっては必要なときに運行されるような方法、いわゆる福祉タクシーなども考えていかなければならないとも考えている。

町の人口は自然減も含めて毎年150人ほど少なくなっているが、町では現在グリーンツーリズムへの取り組みを強化し、自然や景勝、文化を活用して交流人口を増やしていきたいと考えている。第2の人生において田舎暮らしを求める方々を受け入れるなど、田舎の良さをアピールしていきたい。

また、私はここで生活していくことのできる町づくりをしたいと考えている。若い人が出て行く町から残る町に、また子どもの声が聞こえる町にしていきたい。そのためにも、これまで行政主導により物事に取り組み、補助や支援がなくなると終わってしまうというような取り組みが多かった感が強かつたが、これからは自らやる気のある方々を町が積極的に支援する形で地域づくりを推進したい。そして、その取り組みが地域の地場産品として定着していくことが望ましいと考えている。

私の町政方針は「みんなの声が響くまち」であり、それにしっかりと応えていく行政運営を行っていきたいと考えている。

## 7. 事前協議事項

### ① 白沼一帯の安全対策について

(自治区長) 白沼は町史にもあるように今から約400年前、会津の大地震により飯谷山が崩れてできたものといわれる。昭和30年の大水害では沼の決壊を心配し、新田地区3戸が避難したこともある。沼のあちらこちらから水がわき出しているなど、昨今のゲリラ豪雨による惨事を考えると不安がある。専門的な分野から調査を行ってもらいたい。

(建設水道課長) 約400年前の大地震によりできた大きな沼であり、どこから流水があるのか、またどこに抜けているのかを調査するのは困難と思われる。あまり経験のないことでもあるので、国や県に該当する事業などがあるか相談して対処を考えたい。

### ② 林道小杉山線の土砂崩れについて

(自治区長) 浦ノ山地内の法面がえぐられた状態で土砂崩れが発生している。応急処置で土のうでくい止めているが、これも沼からの流水が原因ではないかと考える。早急な工事をお願いしたい。

(建設水道課長) 浦ノ山地内の法面崩落箇所は、過日の豪雨により再度崩落した。道路に崩落した土砂については、速やかに撤去作業を実施している。土砂を撤去した後、もう一段大型土のうを設置する仮設処理を行う。

また、法面工事について県の治山事業や林道の改良事業等が実施できないか県と協議をしているので時間が欲しい。

## 8. 意見交換

(自治区長) 林道の土砂崩れのあった箇所も白沼の水が原因ではないかと考えてしまう。一緒に樹木が崩れ出たら大変である。

(意見) 久しぶりに境界確認ということで山に入ったが、以前にはなかった水の流れた跡のような箇所を見つけた。これも沼から水が原因なのではと思うが。

(自治区長) 沼から抜けた水は、ほとんど長谷川に流れ込んでいると思う。

(企画情報課長) 道路をつくったときも岩盤が多くあった。こういった土地であることから、スギなどの生長も良い土地柄なのではないか。また、あちらこちらから水が抜けることが、沼の崩壊を抑制してきたとは考えられないか。

(意見) 水位は夏場と冬場で変わるが溢れることもない。底から湧き水もあるようだ。

(町長) 危険箇所であるとか、滝坂地区の地滑りのようなものと考えれば、どういう調査方法があるのか考えてみたい。

(意見) 過去に事故のあった箇所では、雪崩、落石や枯れた枝が落ちてくることがある。対策してもらったことがあるがまだ改善されていない。

(事務局) カシノナガキクイムシの被害による枯れた木が多い箇所である。雪の重みや強風により枯れ枝が落ちてくることがある。

(自治区長) 落石などによる事故がないのが不思議なくらいである。

(町長) 保安林も多いようなので、場所を確認し対応を検討したい。

(意見) ツキノワグマによる被害がある。トウモロコシが被害に遭い、来年は作らないかと思っている。今は栗が被害に遭い、山に入るのも怖い。

(町長) 被害の大小は周期があると思われる。昨年は山の実のなりが良かったようであるが、今年は悪いらしい。冬眠を控え食いだめをするために里に出没していると思われる。クマを捕獲するために県の許可を受けなくてはならない。対策を講じても危険と判断されないと許可されない。捕獲は箱わなを仕掛けることになる。自治区長を通して連絡願いたい。

(意見) 携帯電話の通話環境の整備はどうなのか。

(企画情報課長) 本来であれば通信事業者が設置するところであるが、小さな集落を対象としては容易に進まない。町では、ケーブルテレビを利用したアンテナ工事に取り組んでいる。今後6年間で10基設置していくこととしているので、要望により調整していきたい。

(意見) 小杉山も限界集落といわれる地域になっている。お墓を守っていくことも大変になりつつある。町としてこのような集落の支援はどのように考えているのか。

(町長) 限界集落対策に即効性のある施策はないと思っている。一番の問題は一人暮らしの支援であり、定期的な面談の場、サロン的な場を作っていくことが大切だと考える。町にある施設すべてをまかなうことは不可能であり、新たに施設整備することも困難である。地域における簡易介護ができるような体制を整備したい。

また、元気な集落を作るために集落支援員制度の整備を検討していきたいと思う。

(意見) 以前は年に1回程度、保健師や食生活改善推進委員が来て指導を行っていたが、ここ何年かは見かけない。誰が担当なのかも分からぬ。

(町長) 同様の話を聞くことがある。どうなっているのか確認したい。

(自治区長) 町民バスの利用状況は把握しているのか。

(事務局) 担当課に確認したところ、新たに運行した4集落の中では一番利用者数が多いようである。通院というより、温泉施設に行く際に利用されていると聞いた。

(意見) 通院には利用しにくい。誰も乗らないのに運行していることも申し訳ないと思うこともある。帰りのバスには乗せてもらえないのか。

(事務局) 本年度は4集落の意見を踏まえた計画により運行したつもりである。実際に運行して不具合や要望はあるかと思うので、今後の見直しにおいて参考としていきたい。運行したことにより善し悪

しも見えてきている状況にある。

また、いわゆる回送の時には人を乗せることはできないことになっているので、その時間が利用したい時間であれば、乗車に変更することは難しいことではないと思う。

(町 長) 必要なときに来てもらいたいということもあるかもしれない。どのような体制でやるかは検討しなければならないが、地元と委託業者、町において検討していきたい。町民バス黒沢線もそうであるが、冬期間の運行に支障があるならバスを小型化し今泉地区まで運行するようにしていく。同じく野沢坂下線の繩沢集落通過も可能としてきた。町民バスは皆さんが使いやすいように変えていくこととしていきたい。

(町 長) 山菜などは採れるのか。また、わさびの栽培などはどうなのか。何か特産品を作る取り組みなどはできないか。

(意 見) わさび栽培に取り組んだ方がいたが、うまくいかなかつた。また、販売はしないまでも栽培している家はあったと記憶している。

(意 見) 山の木が枯れて赤くなっている。炭焼きなどが衰退し、人の手が入らなくなつたことにより、病害虫により被害が発生しているのだと思う。対策はできないのか。

(町 長) 県内では平成12年に初めて西会津町で発生が確認されている。当時は楽観視していたが、被害が拡大するようになり駆除対策に取り組んできた。今では町外での被害が報告されており、町内での被害は落ち着いてきたのでは思われる。

(町 長) 今後機会があれば、また伺い話をていきたい。今後も安心して元気に住み続けられる地域づくりに向けた支援を行っていくので協力願いたい。

～ 以 上 ～